

子どもたちを犯罪や事件

学校の安全を警察との連携と



明るい教室で真剣に学ぶ中学生たち（宮城中）

学校内での安全対策を

これまで地域に開かれた学校を目指し、土曜日の校庭開放などを小中学校では進めてきました。しかし、不審者による学校への侵入事件などが報じられる中で、本市でもいざというときに備えた学校の対応が迫られて

います。そこで、『危機管理マニュアル』を作り、不審者の侵入に備えた避難訓練なども各学校で実施。また、児童・生徒に対しては、犯罪から自分の身を守るための冊子『こんなときどうする？』（小学生版、中学生版）を小中学生のいる各家庭へ配布し、注意を呼び掛けています。なお、この冊子は、市教育委員会のホームページでも見ることができ

ます。子どもたちが犯罪に巻き込まれないためにはどうすればよいのか、家庭でも普段からよく話し合っておくことが必要ではないでしょうか。

地域ぐるみで

子どもを守ろう

こうした社会情勢から、最近、学校は塀を高く張りめぐらせ、校門はいつも堅く閉ざした状態にするべきだという声も多くなつてしまいました。

しかし、子どもの登下校のほか、給食搬入や外部との出入りもあり、現実には常に校門を開

ざしているわけにはいきません。また、塀を高くしたとしても限度があり、その気になれば侵入することも不可能ではないでしょう。大切なのは校門を閉めて塀を高くすることではありません。地域ぐるみで、犯罪が起こらないまちづくりをすることが必要ではないでしょうか。現在、「こども安全協力の家」設置のほか、PTAや「まちの安全ひろげたい」、老人クラブなど、多くの地域団体が小中学生の登下校の時間に合わせ、防犯パトロールを行っています。このような地道な取り組みで、子どもたちを犯罪から守っていきたいものです。

実践しませんか あいさつ運動

住民相互の連携が深い地域は、犯罪者から狙われにくいといわれています。あいさつは人と人をつなぐ懸け橋の第一歩。青少年健全育成運動としても「あいさつ運動」を進めているそうです。次の点を心掛けながら、あなたも安全な学校、地域づくりに取り組んでみませんか。

あいさつはよりよい社会をつくります。家庭や学校で、あいさつの励行に努めましょう。



声を掛けながらパトロール（亀里町）

地域のさまざまな団体で、子どもたちのあいさつの励行を進めましょう。地域では、大人から子どもたちへ積極的に声を掛けましょう。地域行事に子どもを積極的に参加させましょう。